



央州寺通信 10月号

菅原祐軌 ysobiporiand06012017@oregonbuddhisttemple.com



「宇宙は誰が作ったか？」 菅原祐軌

今月より日本語での記事を書いてみようと思いいち立ちました。一枚ほどの紙面ではありますが、お付き合いいただければと思います。

さて、日本語版のニュースレターのタイトルを「央州寺通信」としてみました。オレゴン州を漢字で表記すると「央州」となるそうです。中国語では「阿里干」と書くと同っていたので、私の現在の名刺は「阿里干仏教会」となっておりますが、次に作る際には「央州寺」に変えたいと思います。ちなみに、寺号というのは勝手につけられるものではなく、正式な名称とする場合は本山である本願寺の許可が必要となります。しかし、今回は内輪で「央州寺」と勝手に呼ぶことにするので許可は必要ないとは思いますが、皆さん、本山には内緒ですよ。

先日、『仏教の宇宙観』というテーマで講義をさせていただいたのですが、キリスト教では神様が「光あれ」とおっしゃり、宇宙が、そして命が生まれたとされています。では、仏教ではどのように受け止められていたのでしょうか。といったような内容の講義でありました。

仏教の書物の中に『阿毘達磨俱舍論（あびだるまくしゃろん）』という書物があります。仏教学の世界では「唯識三年 俱舍八年」という言葉がありまして、『俱舍論』を八年学べば、難解な唯識が三年で理解できると言われています。その『俱舍論』の中で繰り広げられている議論は非常に複雑で、昔のお坊さん達は「くしゃくしゃとしたような議論ばかりだから『俱舍論』というのだ」と揶揄していたそうです。

そんな『俱舍論』ではありませんが、仏教学の基礎として長い間学ばれていたようです。『俱舍論』の巻三「世間品（せけんぼん）」によれば仏教では「創造者」というものはおらず、この宇宙は衆生の「業」によって出来たとされています。「業」というと、「運命」のように理解されることもありませんが、本来は身・口・意の「行い」のことです。つまり『俱舍論』ではあらゆる「いのち」の行いによって宇宙・世界が作られているとされているわけです。

普通の順序で言えば宇宙が出来て、その後自然、そして命が生まれるはずなのですが、『俱舍論』では衆生の業によって微風が吹き、まず風の層が、そしてその上に水の層、その水の層の表面が黄金の層になり、大地となる。そして、世界の中心である須弥山という山、それを取り囲む七つの山、七つの海、そして四つの大陸、川などの自然が出来上がり、天人、人間、阿修羅、畜生、餓鬼、地獄の衆生の順に命が生まれるとあります。このような順序がどうして可能であるかというと、この世界の他に多くの世界が存在しており、その世界の衆生の業によって微風が吹くからであるとしています。

これは余談であります。大地を成す黄金の層の事を「金輪際」と言い、天の一番上を「有頂天」と言います。どちらも日本語の中に取り込まれた言葉であります。日常生活の中には仏教用語から取り込まれた言葉が沢山あります。このことについては今月の日本語法話でお話しようと思います。

さて、『阿弥陀経』の中には「三千大千世界」という言葉が出てきますが、一つの世界が千個集まった世界を「小千世界」、「大千世界」が千個集まった世界を「二千世界」または「中千世界」、そして「大千世界」

が千個集まった世界を「三千世界」または「三千大千世界」と呼びます。つまり、この世界は十億個の世界によって成り立っており、様々な「いのち」がこの世界の創造・維持を担っているのです。これは非常に仏教的な考え方だと思えます。

先日、こちらに来てから一年以上経ってようやく、初めて日本庭園にお邪魔させていただいたのですが、とても綺麗な庭園で驚きました。アメリカの国旗が掲げられた日本庭園というのも初めてで面白かったです。聞いた話によれば、庭師の方々というのは二百年後、三百年後を想像して庭の設計をされるそうです。

この話を聞いて感心したと同時に、自分達の生活環境はどうだろうかと考えました。私たち人間は自己の利便性だけを求めて、自然を破壊し、自然に還ることの無い物質、または自然に還るのに時間がかかる物質を使ってきました。確かに便利になるに越したことは無いのでしょうか、果たしてそれが後々の世代の「いのち」のためになっているのでしょうか？考えさせられます。

『俱舎論』では私たち衆生の行いによって世界が創られているというものでした。つまり、今の私たちの行いは未来の世界を創っていく行いであります。そう考えると未来のために自分達の出来る事はしておかねばならないのではないのでしょうか。身近なところではリサイクル。「塵も積もれば山となる」ではないですが、一人一人の細かな行いが明るい未来を作っていく行いとなっていくのではないのでしょうか。多くの「いのち」によって創られ、支えられている世界。大切にしていきたいものです。

合掌

日本語法話会スケジュール (十一時頃)

△二〇一八年▽

- 十月十四日 「日常生活の中の仏教用語」
- 十一月四日 「金子みすずの詩の世界と仏教の教え」
- 十二月十六日 「サンタクロースと菩薩道」

△二〇一九年▽

- 一月二十日 「恩に報いる」
- 二月十日 「慈悲とバレンタインデー」
- 三月十七日 「浄土真宗はなんで般若心経を唱えないの？」
- 四月二十一日 「お釈迦さまと甘茶」
- 五月十九日 「仏教と誕生日」
- 六月九日 「地獄と極楽」
- 七月七日 「お月さまには兎がいる！」
- 八月十八日 「仏教と戦争」

お寺のお参りは毎週日曜日十時～です。
どなたさまもお気軽にお参りください。
成人式・七五三、法事等ご相談ください。



筆責 菅原祐軌

央州寺駐在開教使

